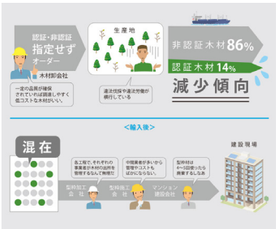
SDGs新聞	三菱地所レジデンス株式会社
自然にも人にもやさしい木材活用	

SDGsラジオを読んでみよう！

マンションを建てるときに、たくさんの木材を使っているのを知っていますか？
コンクリートを流し込んで形をつくる「型枠」という工事がそのひとつです。
では、次に木材には「認証材」と「非認証材」があるって知っていましたか？
まず認証材とは簡単にいうと、森や生き物、木を切る仕事をしている人々を守るためのルールに沿って伐採された木材です。
一方で非認証材とは、ルールを設けずに伐採された木材のことで、禁止されている場所で大量に木を切ったり、子どもたちが違法に働かされていたり、さまざまな問題を抱えています。
そこで、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」は認証材を使うことを目指しています。
ルールに沿って木を切り、木を植え続けることによって、森を再生することが大切だと考えています。
「認証材」を使わないとどうなってしまうのか？
考えてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：「非認証材」による問題・「型枠」のイメージ図
（三菱地所レジデンス公式HPより）

マンションを建てる際には、コンクリートや鉄だけでなく、実は木材も多く使われています。たとえば「型枠工事」という工程では、木材（合板）で枠をつくり、その中にコンクリートを流し込んで壁、床を形づくります。このようなことからも、マンションの建設に木材は欠かせないものです。そして次に考えなければいけないことが、「建設に用いる木材の利用が地球や人・生物にどんな影響を与えているか」です。この影響を確認する方法のひとつに「認証材」があります。木材には認証材と非認証材があり、「認証材」は森や生き物、木を切る人々を守るためのルールに従って伐採された木材です。一方で「非認証材」は、ルールを設けずに伐採された木材で、禁止されている場所で木を切ったり、子どもたちが違法に働かされている「児童労働」などのさまざまな問題が報告されています。

画像参照：「認証材の使用」イメージ図
（三菱地所レジデンス公式HPより）

これらの問題に対して、マンションなどの住まいをつくる会社「三菱地所レジデンス」は、型枠工事の際に、ルールに沿って管理された「認証材」合板を用いています。また、木を使うのみではなく、新たな森を再生することが約束された木材の活用にも取り組んでいます。認証材を使うことで違法な労働や生態系への影響を減らし、そしてCO2の吸収源を確保することによって地球環境を守り、人・生物にも優しい持続可能な社会の実現に役立つことを目指しています。

キーワード

型枠

「型枠」とは、コンクリートを流し込んで形をつくるための木の枠です。コンクリートが固まるまでその形を支えます。型枠を使うことで、壁や柱などの建物の構造をつくることができます。

合板

薄い木の板を何枚も重ねて接着し、強くした材料のことです。建物や家具などに使われます。

児童労働

子どもたちが労働を強いられることを指します。教育や成長に影響があるため、国際的に禁止されています。

対象ゴール

みなさんにできること！

「認証材」と「非認証材」についての理解をさらに深めましょう。

おさらい

- マンションを建てる際には、木材が多く使われている。
- 木材には認証材と非認証材があり、「非認証材」は生態系への影響や児童労働などのさまざまな問題を抱えている。
- 三菱地所レジデンスは、2030年度にはマンションの「型枠材」に用いる木材すべてに「認証材」を用いることを目指している。

メモ

SDGs ラジオ